

揖斐高等学校の生徒が
菓草クッキーを開発

2月27日(月)、揖斐高等学校生活環境科食物コースの生徒たちが菓草クッキーを開発したことを富田町長に報告しました。

開発は、地域資源を活用した地域経済発展の試みとして、町内の菓子店である「みわ屋」と菓草園を運営する「NPO法人山菜の里いび」が共同で行いました。

クッキーには春日の菓草が使われており、菓草の香りと米粉を使用したヘルシーな味わいとなりました。

完成したクッキーは、織田信長が伊吹山に菓草園を造らせたという言い伝えから「信長との約束」と名付けられ、販売されます。

生徒は、「先輩の活動を引き継ぎ、2年かけて試行錯誤したクッキーが商品化して嬉しい」と話しました。



▲3種のクッキーを開発した生徒たち(中央3人)

春日小学校に感謝状が授与
心をこめて花を育てました

3月6日(月)に、春日小学校の「人権の花運動」に対する感謝状が岐阜地方法務局大垣支局から送られました。

春日小学校は、昨年の4月に人権推進校に認定され、同局から花の苗を受け取り、揖斐川町人権擁護推進委員の皆さんのサポートを受けながら大切に育ててきました。

子どもたちに思いやりの心を育てほしいという願いから手渡されたマリーゴールドなどの苗は、児童たちによって、丹精込めて育てられ、色とりどりの花を咲かせました。

児童は、「水やりは大変だったけれど、みんなで協力して、きれいな花を育てられてよかった」と話しました。

1年間の活動をおして、児童たちは思いやりの心を育み、生命の大切さを学びました。



▲感謝状を受けとる児童

IBIGAWA
フリーマラソン

2月26日(日)、揖斐川健康広場を発着として、第30回IBIGAWAフリーマラソン(揖斐川町・町教育委員会・町体育協会主催)が開催されました。

この大会は、地域の人に走ることを楽しさを味わってもらうことを目的に、毎年行われています。

エントリー種目は、男女別に一般・中学生・小学生の部と、家族全員でのゴールが条件のファミリーの部の7部門があり、自分のペースで楽しめます。

またこの大会は、毎年10月に開催される岐阜清流流伝の選手選考大会にもなっているため、郡内のトップ選手の間でも年々増えています。今年も多くのエントリーがあり、さわやかな気候の中、颯爽と揖斐路を走るランナーには地元住民から温かい声援が送られ、全員がゴールしました。



▲勢いよくスタート

スポーツ少年団入団式
活動の成果を披露

3月4日(土)、揖斐川健康広場アリーナで揖斐川町スポーツ少年団の入団式が行われました。

揖斐川町スポーツ少年団は、小学校1年生から中学生が対象で、野球、剣道、空手など13の少年団があり、平成29年度の入団者は約300人となりました。

指導者に対する表彰のほか、各団の団員が自分たちの団のきまりや、目標、活動内容を元気に発表しました。

入団式でスポーツ少年団本部長の山本金守さんは、「揖斐川町スポーツ少年団の団員としての自覚を持って、体調管理に気を配りながら、スポーツ活動に励んでほしい」と激励しました。



▲各団ごとの発表

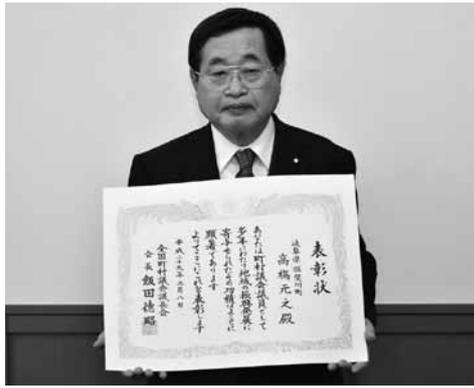
全国町村議会
議長会表彰受賞

2月8日(水)に全国町村議会議長会定期総会で自治功労者表彰が行われ、揖斐川町議会議長の高橋元之さんが全国町村議議会表彰を受賞しました。

■全国町村議会議長会

自治功労者表彰

高橋元之さん(谷汲名札)



▲受賞した高橋さん

自治功労者表彰は、議会活動を通じて地方自治の進展のために大きな役割を果たしていることを評価された議員が表彰されます。
受賞おめでとうございます。

鳥獣被害対策団体として表彰
ジビエで地域に貢献

2月28日(火)、鳥獣被害防止や捕獲した鳥獣の食肉(ジビエ)の利活用などに取り組み、地域に貢献している団体として、所産業株式会社と株式会社キサラエフアルカンパニーズが、平成28年度鳥獣被害対策優良活動表彰農村振興局長賞を受賞しました。

民間主体で、ジビエに適した捕獲技術の普及、衛生的な処理加工技術の確立など総合的に展開しているモデルとして評価を受けました。

町長へ報告に訪れたキサラエフアルカンパニーズ代表取締役社長の所千加さんは、「捕獲による頭数減少や捕獲技術の普及により、シカ肉の品質が非常に高くなってきている。今後も人材育成などに力を入れ、新たな挑戦もしていきたい」と話しました。



▲写真右 所千加さん

プロと町民が共演した
「レクイエム」コンサート

3月5日(日)、プロの音楽家と町民らによるモーツァルトの「レクイエム」を歌うコンサートが、地域交流センター「はなもも」で開かれました。

「アートいびがわ」の一環として行われたこのコンサートには、約80人の「揖斐川モーツァルト・レクイエムを歌う会」の皆さんが参加しました。昨年5月から指揮者で音楽家の青木洋也さんから専門的な指導も受け、練習を重ねてきた「歌う会」の皆さんは、当日、4人のソリストやオーケストラとともに、壮大に歌い上げました。

練習指導者としても関わってきた「歌う会」代表の森三恵子さん(三輪)は「ホールに響き渡った歌声とオーケストラの音の余韻が今も残っています。とても充実した時間でした。今後このような企画がありましたら、ぜひ大勢の方のご参加をお待ちしています。」とコンサートの成功を喜びました。



▲プロオーケストラと町の皆さんとの共演

豊年祈願祭
豊作を願い舞い踊る



▲青空の下で奉納された谷汲踊

2月18日(土)、豊年祈願祭が谷汲山華厳寺一帯で行われ、多くの人々が訪れました。

晴天の下、鳳凰の羽を模した七色の「シナイ」を背負った踊り手たちが、太鼓を打ち鳴らしながら勇壮華麗に舞い、谷汲踊を奉納しました。

谷汲踊は、約800年前に源氏の戦勝を祝って始まり、今では五穀豊穡や無病息災などを祈る踊りとして、地元の人に親しまれています。

県の重要無形民俗文化財にも指定されているこの踊りを毎年楽しみにする見物客も多く、集まった人々は、踊り手の華やかな動きに見入っていました。